

令和5年度 鹿児島市教育研究会  
小中連携研修会「西紫原中学校グループ」研究のまとめ

## 1 ねらい

- (1) 小・中9か年にわたり一貫して子どもの教育を担うという視点から、相互の教育活動の参観などを通して実態把握を行い、小・中連携によるよりよい教育活動の創造に資する。
- (2) 生徒指導や学習指導上の諸問題や課題について情報交換を行い、心豊かで、たくましく生きる児童・生徒の育成に役立てる。
- (3) 相互の職員の交流を通して、親睦を深める。

## 2 グループ名・参加校

「西紫原中学校グループ」 向陽小学校・西紫原小学校・西紫原中学校

## 3 令和5年度 市教委「小中連携研修会」グループ校別研究主題

児童・生徒一人一人が自分のよさや可能性を高め豊かにしていく小・中連携の在り方

「確かな学力の育成」 「心に届く指導の充実」

「家庭との連携を意識した保健指導」 「合理的な配慮を提供する特別支援教育」

## 4 研究主題設定の理由

急速な科学技術の発展と経済の成長に伴い、豊富な物質や情報があふれている。しかし、便利で快適な生活が営まれるようになった反面、「心の豊かさ」を失いつつあると言われている。このような中、学校、家庭、地域の教育のあり方が問われ、予測不能な展望した教育改革が求められている。特に、これからの学校教育は多くの体験活動を通し、豊かな心や課題解決能力などの「生きる力」を育むことが求められている。

そこで、本校区の学校相互の教育活動を参観することや資料提供などを通して、小学校・中学校が連携を深めたり、それぞれの学校や児童生徒の実態を把握し合ったりすることは、子どもたちのよりよい成長を積極的に支援することにつながると考え、研究主題を設定した。

## 5 研究の視点

- (1) それぞれの学校の児童・生徒の実態をもとに小・中の共通課題を明らかにする。（相互理解）
- (2) 課題解決のため、小・中が連携して取り組む実践内容を考え、設定する。（相互思考）
- (3) 小・中で連携しながら、共通実践事項に取り組む。（相互実践）

## 6 令和5年度の研修内容

期 日	内 容	会 場
4月27日（木）	小・中連携研修会推進委員会	西紫原小
5月15日（月）	小中連携研修会	西紫原小
8月29日（金）	NRT学力検査小中合同分析会	西紫原小
11月16日（木）	検証授業(外国語)研修会	西紫原小
2月29日（木）	小・中連携研修会推進委員会	西紫原小

## 7 研究の実際

### (1) 共通課題の設定

	学力向上	生徒指導	保健指導	特別支援教育
出 さ れ た 意 見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「目指す子ども像」の設定</li> <li>・「子どものまなびに向かう意識調査」の実施 (年2回)</li> <li>・「NRT合同分析会」での共通実践事項から</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ指導</li> <li>・無言清掃 (目的を明確に)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けが防止に向けて(子供たちの体幹を鍛え柔軟性を高める取組)</li> <li>・保健室との連携(保健室登校への対応を含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「元気で明るいあいさつ(感謝の言葉も)」への取組</li> <li>・集中力を高める5分間読書</li> </ul>
共通 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「あいさつ」が十分にはできていない。</li> <li>○不登校やいじめ防止に対する取組を進めていく必要がある。</li> <li>○「学力(まなびに向かう力)」を高める取組の継続</li> </ul>			

### (2) 課題解決のための実践内容

#### ◎「あいさつ指導」への継続的取組

(これまで取り組んでいることを生かした各学校の実態に応じた取組)

#### ◎気持ちをととのえる取組(「1分前着席」等、各学校で取り組んできていることを中心に)

#### ◎NRT合同分析の結果や各校の実態を踏まえた授業改善

※課題は共有できているので、それぞれの学校で取り組んでいることを継続して行う

### (3) 実践内容

#### ① 授業研究を通した課題の共有 ～ 【5/15小中連携研修会】

##### 【第6学年 算数科 「分数×分数」】

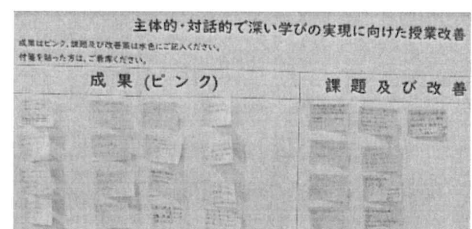
##### 【授業者より】

- ・「授業を通した小中連携」という意味での提案授業。
- ・「3分の2をかけるとはどういう意味か」を主体的に考えさせるために、他者による説明も入れながら「分らなさ」を対話を通して追究させることを大切にした。
- ・分数の意味に着目させることにより「数学的な見方・考え方」を養う。



##### 【質疑応答より】

- 「コの字型の座席」は、横や斜めとも話をしやすくするため。
- 他の子供と直接的な対話ができなくても「自己内対話」をしていればよいと考えている。また、「分からない」と言える学級づくりを進めている。
- 「めあて」を書かないのは、子供それぞれが自分の中に「めあて」を持って取り組んでいたと考えている。
- 「ノート」～見開き、板書を移す野ではなく、思考を残す
- ねらいや教材によって、板書(黒板)の使い方を変えている。
- 書くことが難しい子への配慮もしていく。



## 第6学年 算数科学習指導略案

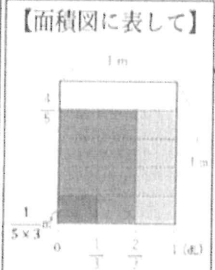
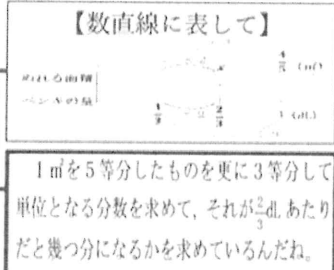
令和5年5月15日(月) 5校時  
6年1組40名 指導者 福富 健

### 1 題材 分数×分数

### 2 本時の目標 (1/11)

問題場面を図、言葉、式、表などに表しながら分数をかける計算の意味を考える活動を通して、数量の関係や分数の意味に着目し、整数から小数へと拡張された乗法の意味を統合的に考えたり、小数をかける計算や分数に整数をかける計算を基にして、計算の意味や仕方を類推的に考えたりすることができる。

### 3 実際

主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
<p>1 問題を見いだす。</p> <p>1 dLで<math>\frac{4}{5}</math> mのかべをめれるペンキがあります。 このペンキ<math>\frac{2}{3}</math> dLでは、何mめれるでしょうか。</p> <p>・ 面積もペンキの量も分数で表されているから、式を立てるのが難しいな。 ・ 表や数直線に表すと分かりそうだよ。 ・ この話は、「単位量あたりの大きさ」と「幾つ分」が分かっている「全体」を求める話だから、今までと同じでかけ算でいいんじゃないかな。</p> <p>分数に分数をかけるとは、どういうことなのかな。</p>	<p>(分)</p> <p>↑</p> <p>15</p>	<p>○ 場面を数理的に捉えることができるようにするために、絵を見せて「どんな話かな。」と問う。</p> <p>○ 「基準量(単位量あたりの大きさ)」と「割合(幾つ分)」、「比較量(全体)」の数量の関係に着目して立式することができるようにするために、数直線や表に表して立式した考えを取り上げ、演算決定の理由を問う。</p> <p>○ 分数をかける意味について問題を見いだすことができるようにするために、「この話は、<math>\frac{4}{5}</math>に<math>\frac{2}{3}</math>をかける話ということでもいいんだよね。」と問う。</p>
<p>2 自分なりの見方・考え方で解決を試行し、話し合う。</p> <p>・ 数直線で考えると<math>\frac{2}{3}</math> dLあたりを求める計算になることが分かるね。<math>\frac{1}{5}</math> mより小さくなりそう。 ・ 分母どうし、分子どうしをかけたら答えを求められそうだよ。でも、説明はできないな。 ・ 意味が分からない時は、今までのように話どおりの図に表したら分かるんじゃないかな。</p> <p>【面積図に表して】</p>  <p>【数直線に表して】</p>  <p>1 mを5等分したものを更に3等分して単位となる分数を求めて、それが<math>\frac{2}{3}</math> dLあたりだと幾つ分になるかを求めているんだね。</p>	<p>×</p> <p>20</p>	<p>○ 分数をかける計算のイメージをつかむことができるようにするために、数直線で表すと何が分かるのか問う。</p> <p>○ 分数の意味に着目し、分数をかける計算の意味や仕方を図などに表して類推的に考えることができるようにするために、「意味が分からない時は、どうすればよいかな。」と問う。</p> <p>○ 分からないさを問い返ししながら意味を考えることができるようにするために、考えを表現し他者に説明したり、他者が解釈したりする「図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う数学的活動」を位置付ける。</p>
<p>3 本時の学びを振り返る。</p> <p>「単位量あたりの大きさ」と「幾つ分」が分かっている「全体」を求めるときは、分数であっても整数や小数のときと関係は同じだから、かけ算の式でいいね。 分数をかけるというのは、1を何等分しているかということや、そうして求めた単位量あたりの大きさの分数の幾つ分になるかを求めるということなんだね。</p> <p>・ 整数・小数のかけ算の学習や分数の意味と、つなげて考えるといいんだね。 ・ 分からないことは、図にかいたりみんなで言い直しながらつなげたりするとよく分かるね。 ・ かけられる数やかける数が他の分数のときにも同じように考えることができるのかな。</p>	<p>×</p> <p>10</p> <p>↓</p>	<p>○ 分らなさを問い返ししながら意味を考えることができるようにするために、考えを表現し他者に説明したり、他者が解釈したりする「図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う数学的活動」を位置付ける。</p> <p>○ 単位分数の幾つ分という分数の意味に着目し、計算の意味や仕方を類推的に考えることができるようにするために、「答えの分母の15や分子の8って結局何なのかな。」と問う。その際、先行知識を基にして分母同士、分子同士をかける計算の仕方について発言する児童がいた場合は、「分母同士、分子同士をかけるのと何を求めることができるのかな。」と問う。</p> <p>○ 学びを振り返り、数量の関係や分数の意味に着目し、統合的に考えたり類推的に考えたりする「数学的な見方・考え方」のよさに気付いて、生活や学習に活用していこうとすることができるようにするために、本時で学んだことやよかった学び方について問う。</p>

② 学力分析を通じた課題の共有～ 【8/29 NRT学力検査合同分析会】

- 各学校とも自校の分析で作成・活用した資料を持ち寄り、課題をもとに共通実践等について協議した。

教科	共通課題・共通実践
国語	
社会	
算数	
理科	
外国語	

③ 授業内容を知ることを通じた課題の共有～ 【11/16 外国語検証授業研究】

第6学年 外国語科 授業プランシート

1 単元 世界と日本のつながりを考えよう  
 教材名 「Let's think about our food」(東京書籍 NEW HORIZON)

**<研究主題>**  
 自分の思いや考えを明確にもち、伝え合う子供皿  
 ～子供が学びを伸ばせる授業づくり～

**<目指す子供の具体的な姿>**

研究内容1 子供が学びを自覚する姿

- 学びを振り返り自覚する
- できた、できない、分かったを自分の言葉で表現(学び方や学びの内容)

研究内容2 子供が学びを活用する姿

- 学びの表現
- 自分の考えを言葉で書く、話す(技能だけでなく、考えたこと)

研究内容3 子供が学びをつなげる姿

- 単元のつながりの意識
- 次時、次単元、他教科のどこに(どこから)つながるか考える

**<単元の目標>**

- 例文を参考に、文を読んだり、書いたりすることができる。 【知識及び技能】
- 相手意識を持って、表現方法を工夫したり、既習事項などを使い表現を伸ばさせたりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- 目的や相手意識を持って自分の課題を見つけ、友達の表現の良さに気づき、自分の学習に生かしながら考えや気持ちを伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】

**2 指導にあたって**

研1 自分でのめあてを設定することで、より振り返りが次の学習に生かせるようにする。

研2 目的や相手意識を常に意識させながら、友達と交流し、自分の表現をより深めさせていく。

研3 本単元で学習した内容だけでなく、既習内容で生かせるものはないか、意識しながら進めさせるようにする。

**3 単元の指導計画(全8時)**

場 所 (時)	主 な 学 習 活 動	研 究 内 容		
		1	2	3
1	普段食べている食べ物名前を知る。今回の学習の大きな目的を知る。 「授業士の先生に給食のオリジナルカラーをプレゼンしよう！」	○		
2	条件の一つである、席地の言い方について書いたり読んだりする。	○	○	○
3	条件の一つである、栄養素を考えたい方を知り、読んだり書いたりする。	○	○	○
4	今まで学習した内容を振り返りながら、練習したりよりよい伝え方を考えたりする。	○	○	○
5・6	相手意識を持って表現方法を考えたり工夫したりする。	○	○	○
7	発表をする。発表をして振り返り友達表現の良さに気づかせたりする。	○	○	○
8	発表の続きをする。日本と世界の食料事情について知る。	○	○	○

・ 本時(5/8)  
 目 標 目的や相手意識を持って、今まで習った学習をより工夫して表現することができる。

「伝えられる子供の姿」	「主な学習活動」	時	「具体的な実践の手立て」
	1 あいさつをする	2	
	2 Sounds and lettersをす	3	
	3 What did you eat? Are you hungry?を歌う		
こんな表現でつなげられたらいいな。 私には何が必要だろうか?	4 モデル動画を見る。 →自身の以前ののものを見る。	10	研2 目的や相手意識を常に意識させながら、自分の表現をより深めさせていく。
	5 目的の確認をする。		
今日はこれができるように なりたいたい。	6 目標の具体的な共有をする (レベル1～3)		
	7 自分自身のめあてを立てる 例)発表メモを見ずに相手に伝える声の大きさを伝える。	10	研1 自分でのめあてを設定させることで、振り返りが次の学習につながるようにする。
	8 自分でのめあてに向けて進める。 タブレット・動画・友達・先生など色々な方法で。		
	9 FBTで友達と交流する。	5	研3 目的や相手意識を常に意識させながら、友達の表現の良さに気づきながら、自分の表現をより深めさせていく。
友達のこういう表現がいいな、私もやってみよう。でも言い方が分からない。	10 中間報告。 言いたいけど言えなかったこと、困っていること、友達よかったことを全体で共有。 「目的」を振り返らせる。本時でこれに悩むのか?	5	
もっとよりよい伝え方ができるように、何をがんばったらいいいかな。	11 再度FBTで友達と交流する。	5	
	12 単元の振り返りを記入する。	5	研3 子供が次の学習でどうしたいかという思いを持ったために、振り返りの時間を確保する。